

令和5年度 山口県立岩国総合高等学校 学校評価書 校長(松本剛)

1 学校教育目標
<p>スクール・ミッション 生徒一人ひとりの個性や可能性を生かす選択幅の広い教育やキャリア教育を行い、地域における高校教育の個性化・多様化のニーズに応えるとともに、地域・社会や地元企業等と連携・協働した課題解決型学習を通して、他者と協働しながらこれからの地域・社会に貢献できる人材を育成する。</p>
<p>教育目標 ○たくましく生きる力の育成 ○個性豊かに生きる力の育成 ○心豊かに生きる力の育成</p>
<p>中・長期目標 校訓「自立」の具体化を図り、時代の変化や社会の進展に対応できる人間の育成</p>
<p>めざす学校像 ・一人ひとりの夢の実現をめざす ・新しい教育スタイルを常に求める ・地域社会に貢献できる人材を育てる</p>
<p>育てたい生徒像 ・「基礎学力」をはじめ、「学ぶ力」「考える力」「表現する力」「行動する力」と「生涯学び続ける力」を身に付け、進路を獲得して、21世紀をたくましく生き抜き、自立した人間として社会に貢献できる人</p>
2 現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）
<p>【学校運営全般】 ○複雑化する教育環境にあつて、新学習指導要領の主旨を踏まえた教育の推進のため、コミュニティ・スクールの仕組みも活用し、学校・家庭・地域との連携による「社会に開かれた教育課程」の実現に取り組むとともに、生徒の多様な進路目標の実現に向け、総合学科の特色である「産業社会と人間」「Wise Person21（総合的な探究の時間）」「課題研究」を柱とするキャリア教育について、PBL（課題解決型学習）やSTEAM教育等の新たな学びの視点を取り入れながら、さらに充実・深化を図る。 ○やまぐちスマートスクール構想により整備された大型提示装置・一人一台タブレット端末等のICT機器を活用した新たな教育手法と、これまで学校が実践・蓄積してきた伝統的な教育的知見の融合により、「基礎学力が定着する授業」「学ぶ喜び、わかる授業」に向け、さらなる授業改善を図る。 ○新型コロナウイルス感染症の影響により、学校行事をはじめとする学校教育活動に大きな制限がかかり、この状況は今後も続くと考えられる。ICT機器等を活用した新たな学校行事の形も生まれつつあるが、本年度も「感染症対策」と「学校教育活動」の両立が大きな課題である。 ○本県の少子化、人口減少化を受け、生徒定数・教員定数の削減が行われる中、持続可能なカリキュラム・学校運営に向け、働き方改革の推進を進めるとともに、校務分掌における業務分担の見直し及び業務の平準化を継続する必要がある。</p>
<p>【学習指導】 ○生徒の学習意欲を向上させるため、教科内また教科間においても連携を深め、さらなる授業改善に取り組む。 ○動画学習の効果的な活用や、スタディサプリを有効に使うことで、家庭学習の定着・基礎学力の向上に取り組む。</p>
<p>【生徒指導】 ○開発的・予防的生徒指導、情報モラル教育の推進により、社会性や自己指導能力を育み、いじめや問題行動の未然防止を図る。 ○個々の生徒が生き生きとした学校生活を過ごし、自他の人権や生命を尊重することのできる態度を養う。</p>
<p>【進路指導】 ○生徒・保護者に対して進路情報を適切に提供する中で、満足度の高い進路決定・進路実現をめざした、きめ細かな指導・支援に取り組む。 ○各分掌や年次との連携強化を図り、キャリアガイダンス、キャリアカウンセリングの充実を図る。</p>
<p>【保健・安全指導】 ○喫緊の課題である感染症拡大防止対策等を通して、保健安全への意識を高め、自らの健康を守り育てる実践力のさらなる向上を図る。 ○清掃活動（ボランティア活動を含む）の充実・校内外の施設整備・環境美化を推進する。</p>
<p>【学校運営、特色ある学校づくり】 ○総合学科の特色ある取組の意義や目的を明確化し、地域とともに考え活動する、活力ある学校づくりを進める。 ○コミュニティ・スクールの仕組みを活用し、地域連携や校種間連携による教育活動の質の向上を図るとともに、積極的な情報発信に努める。</p>
<p>【業務改善】 ○分掌間連携を強化することにより、迅速な意思決定と協働体制の構築を図り、効率的な校務運営を進める。 ○教職員のワークライフバランスを確保するため、部活動の適正な運営や業務の精選・効率化等を進め、働きやすい職場環境づくりを推進する。</p>
3 重点目標
<p>○3年間を見通した「キャリア教育」推進の視点で、教科・分掌・年次間の連携を強化する。 ○生徒の主体性を育む教育活動の充実を図る。</p>

4 自己評価				5 学校関係者評価			
評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	意見・要望等	評価
学習指導	わかる授業の実践を通して、達成感をもたせる。	スタディサプリやICT機器の活用など生徒の理解度に応じた教材の工夫、ペアワークなど生徒同士の学び合いを重視した授業改善に取り組む。	授業評価アンケートにおいて、「この授業内でのさまざまな活動を通して、学習内容の理解が深まった」という回答が、 4：80%以上 3：60%以上 2：40%以上 1：40%未満	4	授業評価アンケートの結果から、理解度を確かめながら授業を進めてくれた、という回答は「そう思う」と「どちらかというとそう思う」を合わせて95.6%であった。ICT機器の積極的な活用だけでなく、教材や授業形態の工夫等による授業改善に努めながら、わかる授業の実践に引き続き取り組んでいきたい。	・今後も生徒の理解度を確かめながら、分かる授業の実践に取り組んでいただきたい。	A
	多様性の中で自他を認め、他者と自分を尊重できる力を養う。	総合学科の特色である多様な選択を経験することにより、判断力を養うとともに、自己肯定感を高め、他者を尊重する力を身に付けさせる。	4：Fitによる対人適応度の要注意・要確認の人数が30人未満 3：Fitによる対人適応度の要注意・要確認の人数が40人未満 2：Fitによる対人適応度の要注意・要確認の人数が50人未満 1：Fitによる対人適応度の要注意・要確認の人数が50人以上	3	1年次13名、2年次11名、3年次9名 合計 33名 年次があがるごとに要注意、要確認が減少している。	・自他を尊重する態度を育成してほしい。 ・主体性や自己肯定感を育成する教育を期待している。	B
	いじめの早期発見・早期対応に努める。	偶数月（年5回実施）にいじめに関するアンケートや奇数月（年6回）Fit（生活アンケート）、年間3回の個人面談等により、早期発見し素早く対応する。	4：いじめ確認後即日対応及び継続指導できた。 3：いじめ確認後2日以内に対応及び継続指導できた。 2：いじめ確認後3日以内に対応及び継続指導した。 1：いじめ確認後、対応に5日以上かかった。	4	いじめあるいはいじめと予測されるものについては、即日対応できている。	・いじめについては、未然防止の取組を徹底してもらいたい。 ・生徒・保護者にとって安心できる学校づくりのために、今後も問題が起った時は早期対応をお願いしたい。	
生徒指導	ルールや規範の意義を理解し、自主的な規範意識の醸成を図る。	頭髮服装指導を定期的に行い、また学校行事や全校集会等を通じて、規範意識の大切さを考えさせ、ルールを自主的に守ることの必要性を認識させる。	4：頭髮服装違反者（爪を除く）が各年次15名未満 3：頭髮服装違反者（爪を除く）が各年次25名未満 2：頭髮服装違反者（爪を除く）が各年次35名未満 1：頭髮服装違反者（爪を除く）が35名以上の年次あり。	2	1年次 違反者12名 2年次 違反者28名 3年次 違反者28名 直近1月9日の検査結果による	・規範意識を確立させるのは大変だと思うが、今後も粘り強い指導をお願いしたい	A
	主体的に進路実現をめざす態度の育成	各年次と協力して、校内ガイダンス、学校見学、校内説明会を実施し、生徒が積極的に進路について考える態度を養わせる。	全校生徒アンケートにより、校内ガイダンス、学校見学、校内説明会が 4：「役に立った」という回答が80%以上であった。 3：「役に立った」という回答が60%以上であった。 2：「役に立った」という回答が40%以上であった。 1：「役に立った」という回答が40%未満であった。	4	校内ガイダンスや上級学校見学、校内説明会の取組について、9割程度の生徒が、自分の進路を考えるうえで役に立ったと答えている。生徒が積極的に自分の進路について考える機会を今後も提供していきたい。	・先生方の指導により生徒の意欲を十分に引き出した結果、今年度の進路状況につながったと思う。 ・生徒・保護者に対して、進路に関する情報を適宜提供していただきたい。	
	生徒が希望する進路を実現できるように支援を行う	進路実現に向けて、3年次と協力して面接練習や小論文指導、助言等を行い、自分の進路実現に向けて取り組ませる。	3年次生徒アンケートにより、進路課の支援について、 4：「役に立った」という回答が80%以上であった。 3：「役に立った」という回答が60%以上であった。 2：「役に立った」という回答が40%以上であった。 1：「役に立った」という回答が40%未満であった。	4	今年度の受験において、生徒の約8割が面接試験を受け、約15%が小論文試験を受けた。面接練習は学年団と進路課、校長・教頭で連携して組織的に行い、小論文は個別指導を行い、生徒の進路実現を支援した。	・先生方の熱心な指導に感謝している。引き続き生徒の進路実現をお願いしたい。 ・生徒の進路実現のための校内体制の充実を引き続きお願いしたい。	
保健・安全指導	体力・健康の維持及び、健康についての意識の向上	手洗いやうがい等の生活習慣を身につけるように、授業等で指導する。体育授業等で定期的な体力トレーニングに取り組ませる。	4：1日あたりの欠席者数が3人以下 3：1日あたりの欠席者数が6人以下 2：1日あたりの欠席者数が9人以下 1：1日あたりの欠席者数が10人以上	2	出席すべき日数144日（4月～1月15日） 欠席者の延べ人数1236人 平均欠席者数8、6人 コロナ、インフルによる欠席者が多かったことが原因。	・5月以降コロナ対応が変更され、対応に苦慮されることもあると思うが、引き続き生徒の健康についての意識向上に努めていただきたい。	B
	衛生的な教育環境への意識を高める。	日常の清掃活動や委員会活動（1か月に一度、生活委員による衛生チェック）等により、校内の環境美化を進め、維持していく。	4：月1回の点検で不衛生な場所が3か所未満 3：月1回の点検で不衛生な場所が5か所未満 2：月1回の点検で不衛生な場所が7か所未満 1：月1回の点検で不衛生な場所が8か所以上	4	・グラウンドに小動物のフンがころがっているが、活動の妨げになるほどではない。 その他特に不衛生な箇所は見当たらない。	・校内の清掃や衛生管理については、引き続き指導を徹底していただきたい。	
	安全や防災についての意識を高める。	毎月の点検や防災訓練を通じて、学校生活だけではなく、家庭や将来の職場での安全や防災意識をもつ。	4：月1回の点検で危険箇所がない。 3：月1回の点検で危険箇所が2か所未満 2：月1回の点検で危険箇所が3か所未満 1：月1回の点検で危険箇所が4か所以上	3	・雨漏り、ドアの故障等ケガにつながりそうな箇所があったが、修理できる所はすぐに修理した。	・今後も月1回の安全点検を継続し、校内環境の整備をお願いしたい。 ・避難訓練等の実施により防災意識の向上を図っていただきたい。	

各 年 次	1年次 ○基本的な生活習慣の確立 ○自ら考え、主体的に取り組む姿勢の涵養	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆめミライノートを活用し、振り返りをして学校生活をマネジメントする習慣を確立する。 	ゆめミライノートの振り返りにより、取組に対する 4: 肯定的評価が80%以上 3: 肯定的評価が60%以上 2: 肯定的評価が40%以上 1: 肯定的評価が40%未満	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆめミライノートを記入することにより、生徒自身の理解、生徒同士の理解、教員の生徒理解が促進した。また、定期的に振り返ることにより、学校生活に関する気づきや自分の課題を見つける機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆめミライノートの取組により、生徒が活動を振り返る機会があるのは良いと思う。今後も取組を継続してもらいたい。 	A
		<ul style="list-style-type: none"> ・クラス内でのグループ活動を推進し、HR活動や産社、教科学習においての活用を図る。 ・年次の取組としての自治的活動を推進し、あわせて学年意識の醸成を図る。 	ゆめミライノートの振り返りにより、取組に対する 4: 肯定的評価が80%以上 3: 肯定的評価が60%以上 2: 肯定的評価が40%以上 1: 肯定的評価が40%未満	4	<ul style="list-style-type: none"> ・HR活動や産社でグループ活動を取り入れることで、人間関係の構築につながった。産社行事では、生徒の司会進行により運営した。プレゼンテーションステージ2023の1年次代表は、生徒から立候補者を募り、主体的な活動を支援した。 ・年次の活動で、校外探索、広報委員の活動、卒業生講話、ディベート大会を実施し、学年意識の醸成を図った。次年度は生徒が自主的に活動案を企画し、実施していけたらよいと感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動を通じて、コミュニケーション能力の向上に努めてほしい。 ・多様な活動があり、生徒にとって多くの学びがあった一年になったことと思う。 	
	2年次 ○自ら考え、主体的に取り組む姿勢の確立 ○主体的に学習に取り組む姿勢を身につけさせ、将来の進路への意識をもたせる	授業、学校行事、委員会活動など様々な場面を活用して、自分で考え、周囲と協働して取り組ませる	学校の取組に対する生徒アンケート結果が 4: 肯定的評価が80%以上 3: 肯定的評価が60%以上 2: 肯定的評価が40%以上 1: 肯定的評価が40%未満	3	<ul style="list-style-type: none"> ・HR活動や総合的な探究の時間でグループ活動を取り入れることで、周りの意見を聞いたり、自分の意見を伝えたりする力を身に付けた。そのことが、他の授業での活動の活性化につながった。 ・年次の活動で、レクリエーションや百人一首かるた大会を実施し、学年意識の醸成を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動があり、生徒にとって有意義な学校生活となっている。 ・意見を伝える活動などを通じて、コミュニケーション能力の向上に努めてもらいたい。 	B
		学習計画表を活用し、計画的に学習する姿勢を身に付けさせる。科目選択や進路希望調査などの機会を捉えて、自分の進路について意識をもたせる。	学校の取組に対する生徒アンケート結果が 4: 肯定的評価が80%以上 3: 肯定的評価が60%以上 2: 肯定的評価が40%以上 1: 肯定的評価が40%未満	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画表を記入させることにより、目標を明確にして学習に取り組むことができた。また、科目選択や進路希望調査などの機会に面談を行うことにより、生徒の進路希望の把握や進路実現への意識の向上を図ることができた。LHRの時間に、希望進路先の受験内容や学べる内容、進学のための費用などを調べさせる活動にも取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を明確にして学習に取り組むことは大切なことだと思う。学習計画表の継続的な記入により、生徒理解が進み、また、生徒にとっても学習や進路に対する意識も向上すると思う。 	
3年次 ○主権者として生きる素地の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・考える習慣と本質を追求する喜びを実感する場面の設定 ・多様性を尊重する姿勢と複眼的視点の涵養 ・他者と共によりよい集団(社会)を創造する態度の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 左の観点に関する個人の成長とそれによる集団の力量の高まりが日常の言動から強く感じ取れ、生徒たちの文章の中にも年度当初のそれと比較して飛躍的な内容の深化が認められることを、職員との協議によっても結論づけることができる。 3: 左の観点に関する個人の成長とそれによる集団の力量の高まりが日常の言動から感じ取れ、生徒たちの文章の中にも年度当初のそれと比較して内容の深化が認められることを、職員との協議によっても結論づけることができる。 2: 左の観点に関する個人の成長とそれによる集団の力量の高まりが日常の言動から時折り感じ取れ、生徒たちの文章の中にも年度当初のそれと比較して内容の深化が部分的に認められることを、職員との協議によっても結論づけることができる。 1: 左の観点に関する個人の成長とそれによる集団の力量の高まりが日常の言動から稀に感じ取れ、生徒たちの文章の中にも年度当初のそれと比較して内容の深化が僅かに認められることを、職員との協議によっても結論づけることができる。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・進学希望者には目標に向けて学習を継続する生徒も多く、希望をほぼ実現できた。就職希望者の自覚を促す指導と、「学ぶ」こと自体の喜びを実感する生徒を育てることについては、充分ではなかった。 ・課題研究では、各ゼミの柔軟な対応により、意欲的に取り組む姿勢が目立っていた。発表会でも、生徒主体の運営とプレゼンテーションスタイルの向上を達成できた。 ・心のケアが必要な生徒については、関係部署、家庭、関係諸機関との協力のもとに柔軟な対応に心がけた。結果として3年次での進路変更はなく、全員で卒業を迎えることができた。 ・新しい他者との人間関係を構築し、多角的で複眼的な思考をする生徒を育てようと努めたが、充分ではなかった。 ・次代を切り開くための視野の拡大と現代社会への問題意識を高めようとしてきたが、道半ばである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路の希望をほぼ実現できたことは素晴らしい。先生方の取組に感謝します。 ・課題研究発表会では、それぞれが工夫して取り組んでいた。発表も素晴らしいかった。 ・3年次は、卒業を控え、進路も決めなければならず、心理的に不安定になりがちであると思うが、引き続き指導をお願いしたい。 ・様々な活動をおとて、生徒の視野を広げるとともに、人間力も高めていただきたい。 	B	
特色づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びと成長」のストーリーを、生徒それぞれが描くことができるように、キャリア教育を充実させる。 ・生徒が一人一役を担う特別活動により、主体性を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 各取組の目的を明確にし、取り組み間のつながりを意識して立案し、連携して実施する。 生徒も教員もICTを活用しながら振り返りを行い、成長と課題の確認につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 全取組の9割以上について明確な目標をもとに立案・連携して実施し、効果的な振り返りができた。 3: 全取組の7割程度について明確な目標をもとに立案・連携して実施し、効果的な振り返りができた。 2: 全取組のおよそ半数について明確な目標をもとに立案・連携して実施し、効果的な振り返りができた。 1: 明確な目標をもとに立案・連携して実施し、効果的な振り返りができたのが、全取組の半数未満であった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 1年次「産業社会と人間」2年次「Wise Person21」3年次「課題研究」のキャリア教育科目については、年次ごとに計画立案し、振り返りを実施できたが、学校行事等の振り返りができていない取り組みが若干あった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育科目が充実している。引き続き工夫した取組をお願いしたい。 ・地域との連携した取組についても今後期待している。 	A
		<ul style="list-style-type: none"> 各活動の目的を明確にして、計画立案する。 「話し合い」を充実させ、生とそれぞれ意見を取り入れた行事を実施する。 「振り返り」においては、具体性のある意見や根拠に基づいた意見を求める。 「振り返り」で求めた意見を、次の活動へ「活用」する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 全活動の9割以上について明確な目標をもとに立案し、「話し合い」や「振り返り」、次の活動への「活用」が充実したものになった。 3: 全活動の7割以上について明確な目標をもとに立案し、「話し合い」や「振り返り」、次の活動への「活用」が充実したものになった。 2: 全活動のおよそ半数について明確な目標をもとに立案し、「話し合い」や「振り返り」、次の活動への「活用」ができた。 1: 明確な目標をもとに立案し、「話し合い」や「振り返り」、次の活動への「活用」ができた活動が、全活動の半数未満であった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことに伴って、体育祭や総合祭をはじめ特別活動の様々な場面において、子どもたちの主体的なかわりが見られるようになり、話し合いや振り返りが充実した。 		

学校運営	・保護者・地域の信頼と期待を高め、誇りがもてる学校にする。	・保護者や地域社会に対して積極的に情報発信する。 【目標値】 ホームページアクセス回数 3,000人/1ヶ月当たり ホームページ更新回数 100回(年間)	4: ホームページのアクセス数とホームページの更新回数が目標値に達した 3: ホームページのアクセス数とホームページの更新回数が目標値の8割以上 2: ホームページのアクセス数とホームページの更新回数が目標値の6割以上 1: ホームページのアクセス数とホームページの更新回数が目標値の半分	4	2月5日現在 ホームページアクセス回数13,5146回 (約13,500人/月(4~1月)) ホームページ更新回数74 閲覧数は昨年度の3倍以上(昨年約41,400回)だった。年度末までには、目標更新回数100回を目指したい。 広く積極的な情報提供を呼びかけ、魅力ある総合高校を発信し、より閲覧数の増加に寄与したい。課題としては、特定の情報内容だけでなく、幅広い情報発信が必要である。	・ホームページから、生徒の楽しい学校生活、充実した教育活動が伺える。今後も積極的に発信し、学校の魅力を広めてほしい。	A
		・学校諸行事の運営が円滑に進み、支障のないように、各年次、各課と綿密に連絡を取り、事前準備を進める。 【諸行事】 始業式、入学式、離任式、PTA総会、終業式、卒業式、入学予定者説明会	各年次、各課に対する教職員アンケートで、 4: 肯定的評価が80%以上 3: 肯定的評価が60%以上 2: 肯定的評価が40%以上 1: 肯定的評価が40%未満	4	アンケートより 肯定的評価88% コロナウイルス感染症が5類に移行し、コロナ以前に戻りつつある行事の中で、持続可能な業務改善やその時々々の状況に応じた行事対応をしてきたが、分掌、学年団、教員の各視点によっては評価の低いものも少なからずある。特に、行事終了後に次の行事の準備があり、ゆっくりと情報共有や振り返りが難しいとの意見がいくつかあった。個人、分掌、学年、学校全体等、それぞれの立場での改善の余地がある。	・コロナ5類移行により、諸行事が活発になる一方、実施方法等には様々な課題があると思う。今後も関係各課が綿密に連絡を取り合いながら、行事の充実に努めていただきたい。	
施設・設備	安心・安全な教育環境整備	校舎内外を点検し、危険箇所の早期発見、早期対応に努める。	4: 毎月1回点検し、十分な対応ができた。 3: 毎月1回点検し、8割近く対応することができた。 2: 毎月1回点検できたが、対応が5割以下であった。 1: 毎月1回の点検もできず、対応もできなかった。	3	校内巡視や点検を随時行って、安全な教育環境整備に努めている。なお、今年度は、普通教室棟の漏水対策工事や防火設備の修繕等を実施したところである。	・予算等の制限もあると思うが、今後も安心・安全な教育環境の整備に努めていただきたい。	B
業務改善	勤務時間の適正化	ICTの活用等による業務の効率化。	4: 在校等時間が月4.5時間以上がない。 3: 在校等時間が月4.5時間以上が5人以下 2: 在校等時間が月4.5時間以上が10人以下 1: 在校等時間が月4.5時間以上が11人以上	4	令和5年(12月現在)の教職員(30人対象)の時間外在校等時間の平均時数は27.5時間(R4 29.7)。月平均4.5時間以上が4名(R4 6)。ICTの活用、適切な校内人事配置、業務の平準化、部活動方針の遵守、外部人材の活用等により引き続き勤務時間の適正化に努めていきたい。	・今後も法令を踏まえ、勤務時間の適正化に努めていただきたい。	A
	教職員の心身の健康の維持・向上	福利厚生を進め、休暇等が取得しやすい職場環境をつくる。	4: 年休取得平均10日以上 3: 年休取得平均7日以上 2: 年休取得平均7日以下 1: 年休取得平均5日以下	4	令和5年の年休取得の平均日数は昨年を上回り16.8日(R4 13.8)であった。引き続き、教職員の心身の健康保持、働きやすい職場づくりのために休暇等が取得しやすい環境づくりに努めていきたい。	・教職員の心身の健康を維持するために、今後も働きやすい職場づくりに努めていただきたい。	

6 学校評価総括(取組の成果と課題)							
<p>【学習指導】 ○わかる授業の実現のために、ペアワークや小テスト等で学習内容の理解度を確かめながら授業を進めたことにより、授業評価アンケートにおいて、「学習内容の理解が深まった」の肯定的回答率が95.6%であった。 ○スタディ・サブリによる自学自習や、朝学を計画的に行うことにより、学習習慣の確立と基礎学力の向上を図った。</p> <p>【生徒指導】 ○いじめに関するアンケートやFit(生活アンケート)の実施により、いじめや学校不適應の未然防止、早期発見、早期対応に努めた。 ○課題のある生徒や配慮の必要な生徒に対しては、校内コーディネーターを中心としてSCや特別支援教育支援員、外部の専門家と連携しながら、適宜ケース会議等を行い、チームで対応した。</p> <p>【進路指導】 ○校内ガイダンスや上級学校見学、校内説明会等の実施により、生徒が主体的に自己の進路について考える機会を設けた。 ○生徒の多様な進路希望に対して、進路課として適宜担任や生徒・保護者に対して情報提供を行い、進路実現を図った。</p> <p>【保健・安全指導】 ○新型コロナウイルス感染症5類移行後も、感染対策、衛生指導を徹底し、生徒の健康保持・増進に努めた。 ○危機管理マニュアルの見直しを行ったほか、地域の特性を意識した防災訓練を行い、安全意識の向上を図った。</p> <p>【特色づくり】 ○「学びと成長のストーリー」に基づき、系統的・計画的にキャリア教育を行うことにより、総合学科の特色を生かした教育活動を推進した。 ○学校評価アンケートにおいて、「個性的で魅力ある学校づくり」の肯定的評価が、生徒94%、保護者91%、教員91%であった。</p> <p>【学校運営】 ○ホームページへのアクセス数が飛躍的に増加しており、定期的な記事の更新、更新情報のメール配信の成果が表れている。</p>							

7 次年度への改善策							
<p>【学習指導】 ○次年度は全年次において新課程となる。「わかる授業」の実現に向けて、引き続き各種校内委員会や授業研究をとおして評価や学習指導の充実を図りたい。 ○各教科が連携して計画的に学習習慣の確立と基礎学力の向上に取り組んでいく必要がある。</p> <p>【生徒指導】 ○教員の共通理解の下、服装指導を定期的実施することでルールや規範の意義を理解させ、規範意識の醸成を図りたい。 ○現代社会において複雑化・深刻化する生徒をめぐる課題については、校内コーディネーターを中心としてSCや外部の専門家等を活用しながら、チームで対応していきたい。</p> <p>【進路指導】 ○校内ガイダンスや上級学校見学、校内説明会等、進路について考える機会をより多く設け、主体的に進路選択をできる生徒を育成していきたい。</p> <p>【保健・安全指導】 ○予告なしの防災訓練を実施し、防災に関して自ら考え行動する機会を提供することとおして、防災意識の高揚を図りたい。</p> <p>【特色づくり】 ○地域・社会と連携した総合学科としての特色を生かしつつ、体験的・探究的学習の機会をとおして、自ら学び、考える力を育成したい。 ○地域連携教育の充実に向けて、CSサポーターを積極的に活用していきたい。</p> <p>【学校運営】 ○ホームページをより多くの方に見ていただけるよう、積極的な情報発信や必要な情報にアクセスしやすいホームページ作りに取り組んでいきたい。</p>							